

# 菟田野小だより「桜梅桃李」

No.7

令和4年 6月28日(火)

(<http://www.utano-e.ed.city.uda.nara.jp/>)

## 6年生へ ヒロシマの心(2)



広島市南区に比治山という小高い丘があります。標高71.1mで、山全体が公園として市民の憩いの場となっています。その比治山に一本の老桜があります。「被爆桜」の一つで、爆心地から1.8<sup>km</sup>地点に立つソメイヨシノ。熱線などの影響で、幹の成長具合に差が生じ、爆心地の方向に傾いています。

その桜は、見物人が立ち寄らない山中にあります。ですが、“誰が見ていなくても、私は咲くのだ！”と必死で花卉を広げているように見えます。その泰然たる姿が被爆者の方々と重なって見えます。

ある被爆者の方は、7歳で入市被爆。原爆は家を焼き払い、兄のいのちを奪いました。その後の生活は一変。その方は小学校にも通えず、炭売りやふん尿の処理をして家計を支えたそうです。

読み書きが苦手な彼女は、不戦の誓いを未来へつなぐため、約35年前から原爆ドーム周辺のごみ拾いを始めました。その間、傍観や冷笑もあったそうです。それでも「私は私のできる“平和の戦い”をするだけ」と意に介しませんでした。一人で開始した運動は、やがて彼女に共感する若者たちが集うNPO活動になりました。

先の被爆桜には、こもが巻かれ、支え棒がしてあります。木に訴える術はありませんが、そこに宿る精神を感じた人々によって、厳然と守られています。原爆投下から今年で77年。全国の被爆者の中には「今も語れない」と口を閉ざす方々がおられます。その“無言

の叫び”を感じ、守ってこそ、平和の思いは次の時代へつながると思います。

6年生のみなさんが、平和のためにできることは何でしょう。先述の被爆者の方のように小さな事でもいい、必ず何かあるはずです。平和学習を進めながら、一人一人が考えてほしいと思います。

## グローブ作り100年の伝統の匠

4年生では、社会科で「奈良県の人々のくらし」を学習します。今回は三宅町のグローブ製造業の吉川誉将さんに来ていただいてお話を聞きました。

三宅町の皮革産業の様子やグローブ作りの工程を話していただいた後、子どもたちの質問に答えてくれました。最近では低価格の外国産に押され気味で、「苦勞しています」と語った吉川さんでしたが、言葉の端々に、グローブ作りに対する誇りを感じました。



## 第1回辞書引きコンテスト開催!

本校では、辞書の活用に力を入れ、一人一冊の辞書を用意し、授業中に言葉の意味を調べています。24日(金)に朝タイムを利用して、

「第1回辞書引きコンテスト」を行いました。「つゆ」「かえる」「たなばた」の3つの言葉をそれぞれ制限時間1分で探していきました。高学年では10秒以内で見つける子もおり、盛り上がりを見せました。

ある先人は、「豊かな『言葉』を身に付けた人は、心の動きに敏感になり、物事を深く考え抜けるようになる」と語ります。今後たくさんの方々の言葉に出会ってほしいと思います。

